

コロンビア川海事博物館（CRMM）最高栄誉賞 受賞

本校、木村一夫校長補佐がコロンビア川海事博物館（CRMM）最高栄誉賞を受賞し、7月20日午前11時より、八戸市庁にて贈呈式が行われました。

この贈呈式には、八戸市長、八戸市教育委員会教育長が同席し、授与者であるコロンビア川海事博物館のネイト サンデル氏はリモートで参加し祝辞を述べました。また、駐札幌米国総領事より木村氏へ祝辞が送付されました。上記2件について、小林市長が贈呈者を務めました。

また、木村補佐、小林市長、伊藤教育長からサンデル氏に謝辞を述べました。

式後は終始和やかな雰囲気の中でリモートで歓談しました。

【受賞内容】

八戸市が協力するミニボートプログラムの主催者であるコロンビア川海事博物館より、同プログラムに携わった木村一夫氏に対し、海洋教育の支援における顕著な功績を称え最高栄誉賞が授与される。オレゴン州と交流している小・中学校は大久喜小、金浜小、種差小、根城中。

【参考資料】

2011年の東日本大震災の津波により、八戸市の大久喜漁港弁天島にある巖島神社の鳥居が流出。約2年の歳月を経て2本の笠木がはるか太平洋を越えアメリカ・オレゴン州に漂着しました。

この笠木は、その後たくさんの奇跡と、オレゴン州ポートランドの方々の思いやりによって、大久喜の巖島神社へ返還され、2016年5月に鳥居が再建されました。この奇跡の物語は「笠木物語」として知られています。

コロンビア川海事博物館は、「笠木物語」の舞台となったオレゴン州のアストリア市にある州立の博物館です。コロンビア川の河口に位置し、川と海に挟まれたこの地域特有の気候、地形、生物と街の歴史に関する展示などがあり、東日本大震災の津波により同じく日本から漂着した船も展示されています。

プログラムの実施にあたり、コロンビア川海事博物館から日本側の協力校を探したいと、在ポートランド日本国領事事務所へ要請がありました。「笠木物語」によってオレゴン州とのつながりがあった八戸市に、領事事務所を通じて打診があり、八戸市と連携してプログラムを進めることとなりました。【八戸市のホームページより】

【ネイト サンデル氏に代わって、八戸市長より木村校長補佐に最高栄誉賞授与】



【ネイト サンデル氏に謝辞を述べている木村補佐】



【左から伊藤教育長 木村補佐 小林市長】



【リモート画面のネイト サンドル氏と記念撮影】



【リモート参加のネイト サンドル氏との歓談の様子】



